

平成28年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立飛騨高山高等学校 学校番号 58

1 学校教育目標	(1)「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 (2)社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材を目指し、一般教養及び専門的知識や技術を身につけさせるとともに、創造性あふれた明朗快活で心豊かな人間性を養う。
2 現状の分析	○本校に入学できてよかったと感じている生徒や保護者が97%に達しており、充実した高校生活を送ることができている。 ○複数学科を設置する本校の特徴を生かした学科間の交流が進んでいる。 ▲自主的・主体的な学習態度を身につけさせるために、授業形態や評価方法の工夫等、授業改善をさらに進める必要がある。 ▲生徒の特性や能力を最大限に生かすことができるよう、キャリア教育のさらなる充実が必要である。
3 学校の抱える課題	・自己の在り方・生き方を考え、自己実現の達成に向けて主体的に努力する態度を育成する。 ・職員同士がさらに学び合い、具体的な授業改善を通して生徒の自主的・主体的な学習態度を育成する。
4 今年度の具体的な重点目標	◇特色ある教育課程を編成し、確かな学力向上に努めるとともに、学科、教科を超えた連携を行う。 ◇協調性や思いやりのある、心豊かで規律正しい人間形成に努める。また、部活動を充実し、健康・体力の増進を図る。 ◇地域社会と緊密に連携したキャリア教育を進め、地元飛騨に積極的に貢献できる「地域社会人」を育成する。

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
(1)学習活動	①学科・教科間で連携した教育活動の推進	①ぎふ総合型選択制の科目選択状況	①(3年生)31.1% (2年生の希望)26.7%	B	○学習形態の工夫等、主体的・協働的に学ぶための授業改善が進んだ。 ▲評価方法の工夫改善をさらに進め、生徒にも明示していく。	A B C
	②多面的な学習の機会として学習成果発表会を実施	②学習成果発表会に対する生徒の満足度	②複数学科の連携による発表。他学科の学習の姿や夢に触れる機会となった。	A		
	③生徒が自主的・主体的に学ぶための授業改善・授業づくり	③自主的・主体的な学びを実感する生徒の割合	③生徒アンケート結果より、自主的・主体的な学びを実感する生徒92%	A		
(2)特別活動	①部活動の活性化	①部活動の実績	①全国大会や国体に出場する生徒をはじめ多数の実績をあげた。	A	○目指す生徒の姿として「文武不岐」が生徒や保護者にも周知されてきた。 ▲さらに、生徒の自主性・創造性を生かした活動を進めていく必要がある。	D
	②生徒会活動の活性化	②生徒会活動の活性化状況	②生徒の意見を取り入れ、生徒が主体的に企画・運営できるよう進めている。	B		
	③生徒が主体的に活動する場の提供	③MSリーダーズ活動参加状況と活動後の感想	③MSリーダーズ登録者331名(活動継続表彰78名)	B		
(3)進路指導	①ホームルーム等での適切な進路情報の提供	①生徒の進路実績及び自己評価	①志望する進路先に合格している。(進学59%、就職41%)	B	○地域との連携を図った活動が推進された。 ▲自身の特性を理解し、夢が語れる生徒の育成。	
	②個々の生徒の特性等の把握とそれらに応じた進路指導	②進路に関わる行事(活動)に対する生徒の評価	②生徒アンケート結果より、インターシップ等に意欲的な生徒88%	A		

II 学校関係者評価 実施年月日：平成29年1月27日

・学習成果を外部のプロの方に見せて辛口の評価をしてもらうことで、さらに学習や活動を深めることができるのではないかと感じました。
・礼儀や服装がしっかりしている。就農への気持ちも強く、頼もしく感じた。地元で農業をする人を減らさないようにしてほしい。
・全国レベルの部活動がある学校というイメージだったが、学習面でも活発な活動のあるよい学校だと感じた。

12 来年度に向けての改善方策案

・「飛び出せスーパー専門高校生推進事業」発表に向けて、地域産業や事業所との連携を推進し、成果を地域の人々及び中学生に紹介していく。
・生徒の自主性・創造性を育て、それらが発揮できるような生徒会活動及び各委員会活動を実施する。
・生徒の能力を伸ばすとともに、願いや思いを十分に聞き、一人一人の特性に合った進路を実現する。

